

船橋市海老川上流地区における自然と医療施設を一体としたメディカルタウンの提案

BR16012 石坂智也
指導教員 鈴木俊治

1. はじめに

1-1. 研究の背景

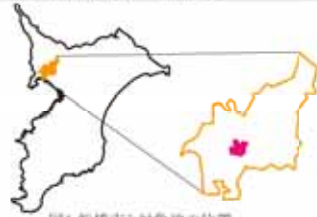
高齢化が進む今日の社会では住民の健康意識を高めていくことが重要であり、身体運動量の増加も重要な要素である。しかし交通機関の発達によって住民の身体運動量が減少していることも明らかであり、自主的に体を動かそうとする人も実際には少ないという課題がある。船橋市でも住民の高齢化が進んでおり、健康寿命を延ばそうと健康増進目標を掲げているが、市民の健康意識向上に向けた体制やまちなかで気軽に体を動かせる場が少ないのが現状である。

1-2. 研究の目的

船橋市海老川上流地区では医療センターの移転や東葉高速鉄道の新駅誘致が予定されており、新しいまちづくりが計画されている地域である。本研究はこの計画の一部を設計条件とした上で、地域資源である自然や医療を一体とした都市空間を設計し、地域住民や医療センター利用者の健康増進を促すことを目的としている。

2. 対象地

2-1. 船橋市の概要



船橋市海老川上流地区

面積：約 119 ha
人口：2096 人
世帯数：768 世帯

図1 船橋市と対象地の位置

船橋市は千葉県の北西に位置し、人口も県内では千葉市に次いで2番目に多い。船橋駅から東京駅まで約25分でアクセスできるため東京のベッドタウンとして発展した。商業活動が盛んであり、農業や漁業も活発に行われている。

2-2. 対象地の位置と周辺現況

対象地はJR 船橋駅から直線距離で約1.8km 離れた海老川上流地区に位置している。東葉高速鉄道の高架が対象地に通っており、新駅の開業によってアクセスも良くなるため他地域から訪れる人が増えることが予想される。また対象地周辺には県が管理している調節池や農地、海老川、飯山満川などの自然が多く存在しており、地域資源となっている。



図2 対象地の周辺現況

2-3. 対象地と海老川上流地域の都市計画概要

対象地とその周辺地域では医療センター移転に伴い、周辺の新たなまちづくりや新駅誘致が市で計画されている。市では「メディカルタウン構想」という健康維持や予防医学の考え方を活かしたまちづくりコンセプトを掲げている。

表1 都市計画スケジュール

令和3年	都市計画事業施工
令和5年	医療センター着工
令和8年	医療センター開院
	新駅誘致



図3 現況写真

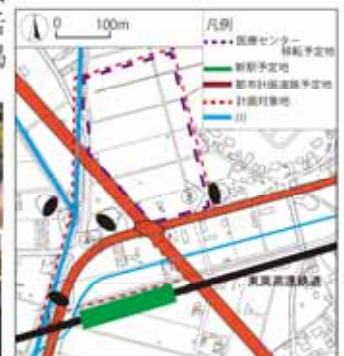


図4 対象地周辺の都市計画現況

2-4. 船橋市と海老川上流地域の人口

船橋市は高度経済成長期に急激に人口が増加し、現在も緩やかに人口は増え続けている。今後も2035年頃までは人口増加が続く予測が出ているため、対象地周辺地域も人口が増加していくことが予測される。船橋市の年齢別推移を見ると高齢化が急激に進んでおり、生産年齢人口は減少傾向にある。

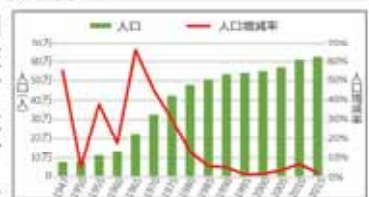


図5 船橋市の人口推移と人口増減率

海老川上流地域でも現在の人口の約23.5%を老年人口が占めている。医療センターが移転してくると地域外の高齢者や体が不自由な人の利用が増えることが予想されるため、バリアフリーなまちにしていく必要がある。

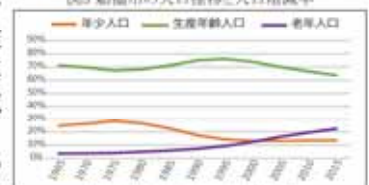


図6 船橋市の年齢別人口推移

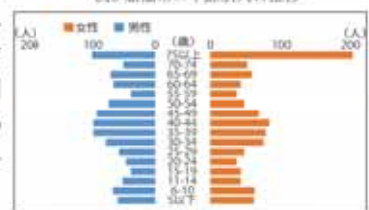


図7 海老川上流地域の人口ピラミッド

3. 問題点

1. 滞留空間や地域活動の場所の不足

人々の健康維持や促進には他者との交流が有効であるが、滞留空間(広場・公園・ベンチなど)が少なく、地域活動が行える空間が不足しているという現状がある。

2. 自然を活かしてきれていない

対象地周辺には川、並木、農地、緑地など多くの自然が存在するが、水に触れられる機会がなく、休耕地も多く残っている。花見シーズンには屋台が並び多くの人で賑わうが、イベントはこの時期以外には行われていない。

3. 車両の通過交通が多い

海老川沿いのジョギングロードは並木道になっており、幅も広いので歩きやすいが、その他の対象地周辺道路は自動車や自転車の交通量が多く、歩道の幅も狭いため快適な歩行空間とはいえない。

4. 計画概要

4-1. 計画方針

今回の計画では、医療センターを利用する「患者」と、地域住民、患者の付添家族、他地域からの来訪者など医療センター以外の目的で地域を訪れた「地域利用者」の二者に対するアプローチから計画をする。

4-2. 計画コンセプト ～生きがいを生むまち～

患者

- ・自然を感じながら散歩、食事(診察終わりの楽しみ)
- ・入院患者同士の交流

- ・不安を解消しポジティブな感情
- ・人と会話し一緒に活動する楽しみ
- ・通院するモチベーション

交流

地域利用者

- ・フィットネス、温泉、ジョギング
- ・川遊び
- ・買い物

- ・日常のストレス解消
- ・家族との時間
- ・病気、健康への理解

図8 計画方針図

地域資源である自然による「癒し」と、地域全体で起こる人々の交流の「楽しさ」によって喜び、楽しみを生み、自分の居場所を見つけることで、「またここに来たい」と思えるまちを目指す。



図9 コンセプトダイアグラム

4-3. SDGsとの関連

本研究の提案は地域資源である都市の中の自然を活かしたまちづくりによって、人々の健康増進を促すことを大きな目標としている。よってSDGs「11,住み続けられるまちづくりを」「15,陸の豊かさも守ろう」の達成に貢献できる提案を行い、本研究の最終的な目標である「3,すべての人に健康と福祉を」の達成につなげていく。



図10 SDGsとの関連

5. 設計概要

○設計条件

本研究では医療センターと新駅の敷地計画を2019年7月末時点の都市計画に従い、その敷地を含んだ周辺地域のランドスケープ計画及び主要建築の提案を行う。

○配置計画

新駅から医療センターまではデッキ上を通行することで簡単にアクセスができる。その他の地域利用者は新駅を出て駅前テラスから商業・健康施設や海老川テラスへとつなぐ。

商業・健康施設はショッピングフロアとジム・フィットネスフロア、スパ・宿泊フロアが入っている。

医療センター敷地内にも緑が広がっており、敷地を出ることなく自然を感じられ、健康指導などのイベントを通じて、患者と地域利用者の交流が生まれる。



図11 配置計画図

○全体鳥瞰パース



図12 全体鳥瞰パース

○イメージパース

1. 海老川テラス



図13 海老川テラスイメージパース

海老川テラスでは川沿いの水辺空間を楽しみながら、買い物や食事を楽しむことができる。2階のテラスからは川沿い空間と海老川ひろばの活動が見え、水辺や広場に立ち寄りたくなる。海老川ひろばでは健康遊具で身体を動かすことができ、地域住民や健康センターによる地域活動の拠点にもなる。

2. 駅前テラス



図14 駅前テラスイメージパース

新駅前には川沿いで待ち合わせや食事を楽しむことができる駅前テラスを設計した。健康用品やスポーツ用品のメーカーが屋外で販売、試用会を行い人々の興味を惹く。デッキの上を歩いている人は上からテラスの様子を見ることができ、帰りに立ち寄って行きたくなるような空間となっている。

6. まとめ

本提案により、患者、地域利用者が地域全体で「癒し」、「楽しみ」を感じられる様々な体験をすることができ、人々の健康意識を高めることができる。